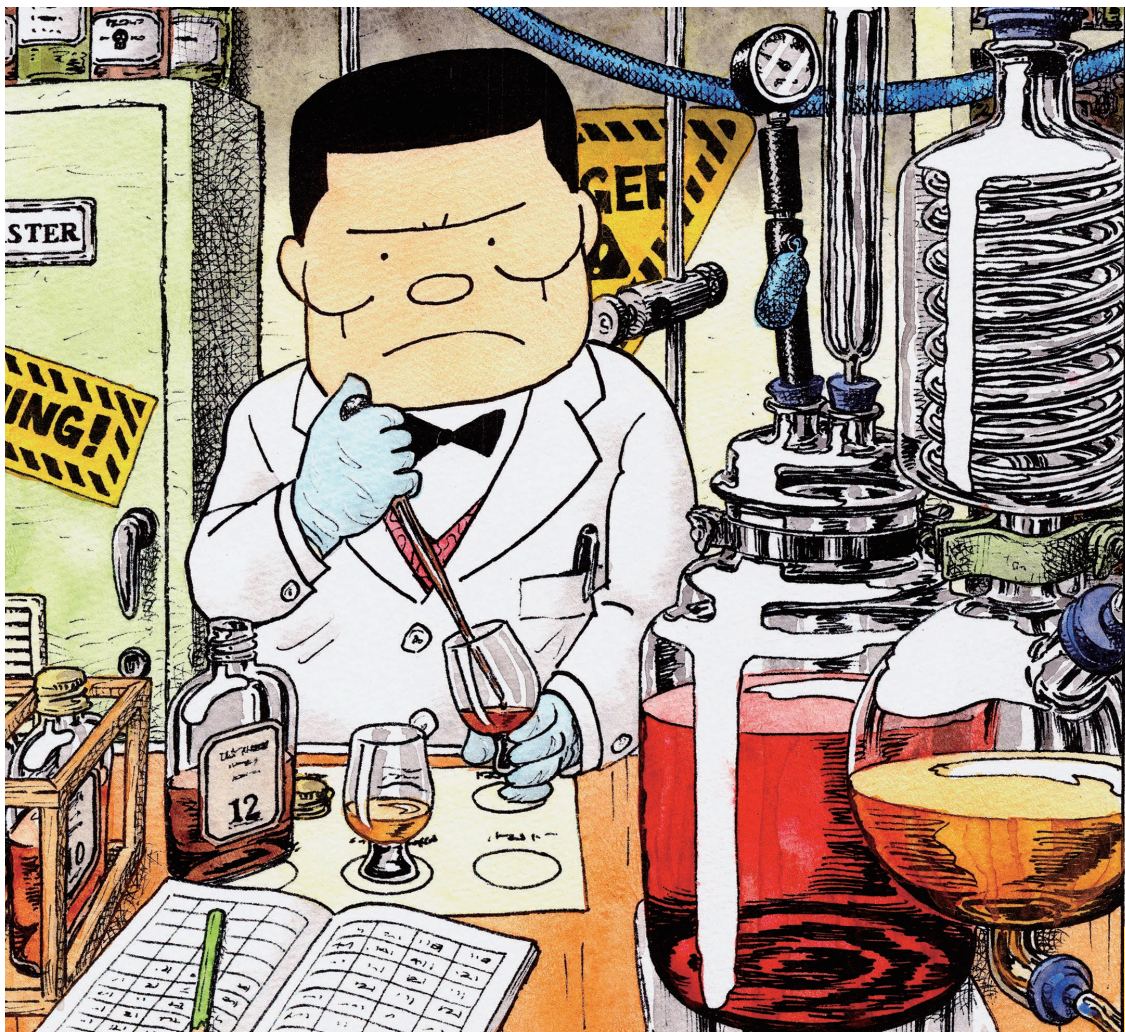


BAR レモン・ハート ~BARレモン・ハート第二弾~

SUPALIV開発秘話



監修：犬房春彦（医師・医学博士）

作画：古谷三敏 協力：株式会社ファミリー企画

漫画：BARレモン・ハート

1936年生まれ漫画家古谷三敏の長期連載作品にして代表作、漫画『BARレモン・ハート』は1985年「別冊漫画アクション」において連載がスタートしてから、今も「漫画アクション」にて月1連載中。

※2021年6月現在

お酒のウンチクと人生模様を語る大人のためのグルメコミックスであり、お酒好きのバイブルとして長期に渡り読み続けられている。

古
谷
三
敏



犬房春彦（医師・医学博士）

1957年、岡山県出身

近畿大学医学部卒業後、近畿大学医学部大学院外科学系専攻終了(近畿大学博士:医学)

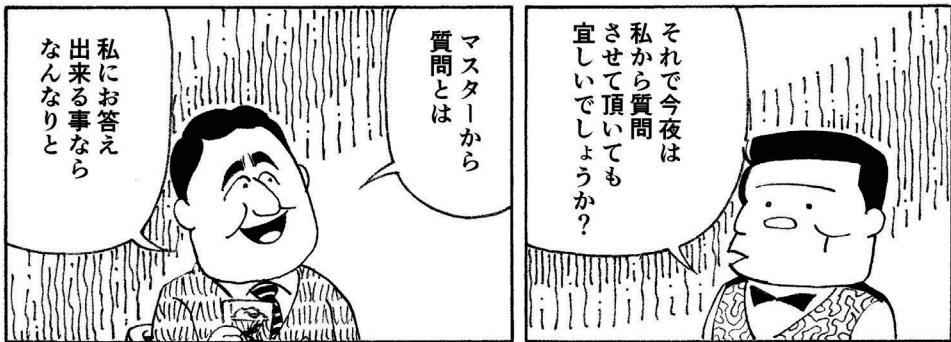
その後、近畿大学医学部臨床医学部門臨床栄養学 教授、ストラスブール大学欧州テレサージェリー研究所 客員教授、スペインバルセロナ大学外科学教室 客員教授などを歴任し、2013年より岐阜大学 抗酸化研究部門 特任教授、2020年より公益財団法人 ルイ・パストゥール医学研究センター 抗酸化研究室 主席研究員



発行日 2021年10月1日

発行元 SUPALIV株式会社
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3丁目28番2号 SP15 EBISU 3階

© 2021 SUPALIV, INC
© 2021 古谷三敏 All Rights Reserved.



登場人物

マスター



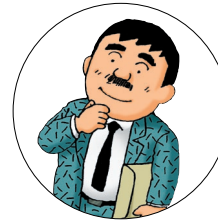
ふらっとよったBARでベテランのバーテンダーが新米バーテンダーにお酒をかけられていた所を目撃し詳しく話を聞き、それなら私に教えてくださいと弟子に志願。そこから修行時代が始まり美味しい水割りが出来上がりようやく1人前として認められ今日までバーテンダーを務めている。若い頃はスコッチ至上主義だったが、他にも美味しい酒がある事をお客様から教えられ全てのお酒を愛する気持ちをもち全てのお酒を大切にしている。

メガネさん



過去に色々な経験を持ち海外にも長く住んでいた経験があり色々な所に顔が利く。メガネさんと呼ばれている理由は漫画では黒くなっているが実は暗い茶色系の色付きメガネをしている事からメガネさんと呼ばれている。普段は競馬新聞を読みながら普段はジンを飲んでいるが、ウイスキーなども好きでお酒の知識もマスターに次ぐ詳しさ。たまにだが葉巻も嗜む。

松ちゃん



職業、フリーライター。様々な出版社に出入りし、日々色々な仕事をしている。レモン・ハートでは基本的にウイスキーのウーロン茶割りを飲んでおり、皆からはお酒オンチと言われている。初期の頃よりは様々なお酒を飲み日々、少しずつではあるが成長しているようだ。よくレモンに女性をデートに誘っているがなかなか叶う事がなく切ない涙を流しているが、次の恋に向かって前向きに歩いている。

犬房さん(犬房春彦:医師・医学博士)

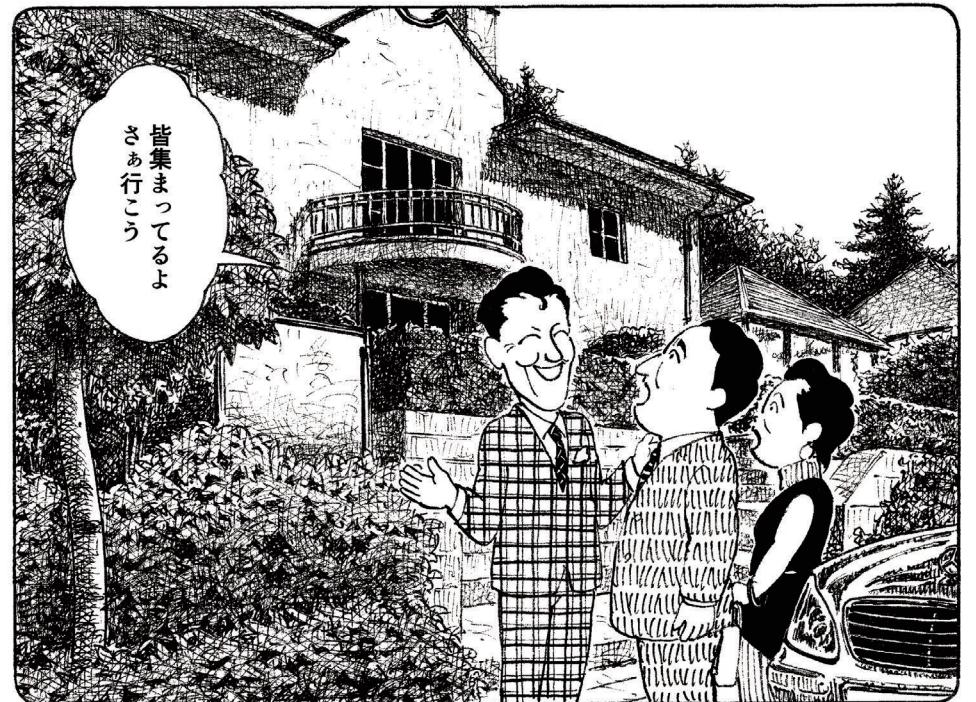


アルコール代謝と酸化ストレスの研究者。近畿大学医学部の教授としてがんの研究をしながら外科医として大学病院に勤務。海外の学会に行った時にマークスマチュエシカに出会いアルコール代謝の研究を依頼される。その後、2006年の49歳の時に大学を退職し外科医から研究者の道へ。研究を人々の健康長寿に生かすために酸化ストレスのメカニズムや疾患との関連を大学や医療機関などと連携して更なる研究を行っている

マークス・マチュエシカ・グライフェンクラ (Markus Count Matuschka de Greiffenclau)



28代目グライフェンクラウ伯爵。カール大帝の時代から続くグライフェンクラウ伯爵家のワイナリーのオーナーであり「医療財団TIMA Anstalt」の理事長。コニャック地方のワイナリー「ドメヌ・ブリヴェ」でワインやコニャックを作っている。2003年にアルコール代謝サプリメント「SUPALIV」の開発を犬房春彦に依頼。完成した後にも抗酸化研究への更なる研究に「医療財団TIMA Anstalt」として協力を続けている。





これが2003年のことでした
こうして
マーカス理事長からの依頼で
アルコール代謝の研究を
すすめていきました



マスターはなぜ我々アジア系のお酒に弱いかがご存じですか？

確か



アジア系の中には遺伝的にアルコールを分解する酵素が少ない、または全くない方が半数ほどいらっしゃるんですね？



マスターには簡単な質問でしたかね

アジア系は遺伝的にアルコールを分解する酵素が少ない、または全くない方が半数ほどいるのに対して



欧米系やアフリカ系等の人はほぼ全員分解酵素を持っているんです



アルコールを分解する酵素が少ないとお酒のリスクも上がるんですか？

例えば毎日ワインを1本以上飲み続けた場合発生率は100倍以上です

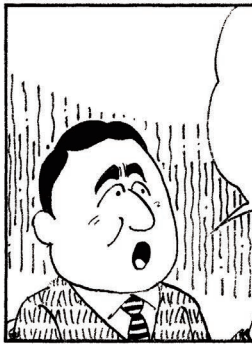


遺伝的に特殊な要素があるとこの発生率が400倍以上にもなることがわかっています



そこまですとは...

だからこそアルコールの分解を助けることはお酒を嗜む人にとって重要だと考えたのです



その中でも犬房さんが一番にお酒を楽しみたがっていらっしやいますからね



続きを

私が最初におこなったのは科学的検証でした



それこそアルコール代謝を高めると言われている成分から候補を絞り込みそれらを単独で無数にある組み合わせを試したりと試行錯誤の連続でした

スパリブの成分はすべて天然成分でその配合率を増やしたり減らしたり無数のパターンを試しました

研究中にはもちろん私含め何名かでワインを飲みながら血液中のデータをとったりしていました

こうして研究をすすめて1年程がたったころ思っていたより早く良い結果が出たのです

動物実験や臨床試験、モニター試験を行い世界各国で特許を取得した後論文や学会発表でアルコールやアセトアルデヒドの代謝活性について発表してきました

実際に一般向けに販売が始まったのは構想から7年後です

長年の研究から
生まれた
サプリメント
なんです

実はこの研究から
派生して
私たちはさらなる
可能性をみつけて
研究を続けています

酸化ストレスと 抗酸化力

酸化ストレスの元になる活性
酸素は酸化させる力が強く身
体の細胞やタンパク質、DNA
を傷付けてしまいます。

しかし、私達の身体にはそもそ
もできてしまった活性酸素を
打ち消す力、抗酸化力が備わっ
ています。

この抗酸化力が産生された活
性酸素を無害化しているの
で、活性酸素が抗酸化力を上
回った時に体内の酸化ストレス
は上がり、身体をサビつかせ疾
患を引き起こします。

さらなる
研究…?

はい
実は
アルコール代謝の
研究を
しているときに
組み合わせる
成分の
配合比率を少し
変えることによって
糖代謝が
進むことに気がつき
すぐにマークカスに
報告しました

そうですね
研究が進む上で
研究施設や
開発体制が
ないと
これ以上の研究は
難しいと
考え

岐阜大学に
研究室を
つくってもらい、
今はその研究室で
研究を続けて
います

もしもし
マークカスか

今進めている
研究は
アルコール代謝だけ
ではなく
糖代謝にも
効果があるものが
できそうだよ

そいつは
凄いな
よし!

さらに研究を
すすめよう!
研究費を
出そうじゃないか

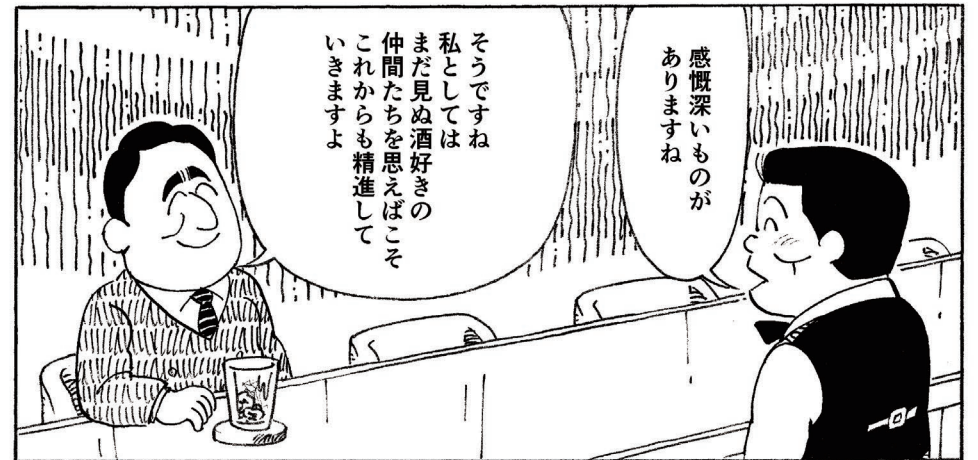
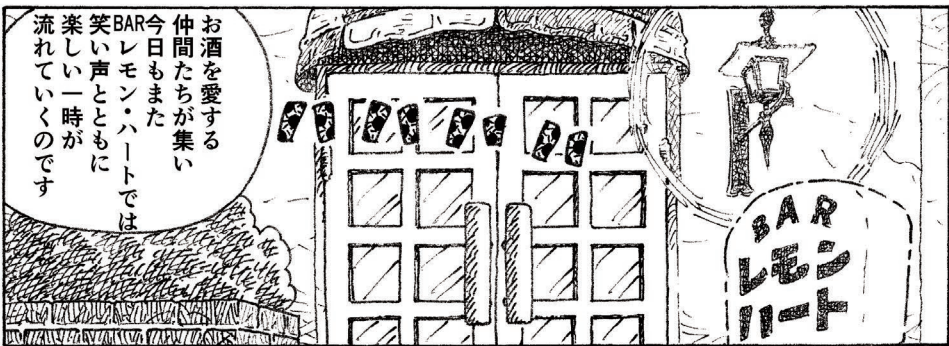
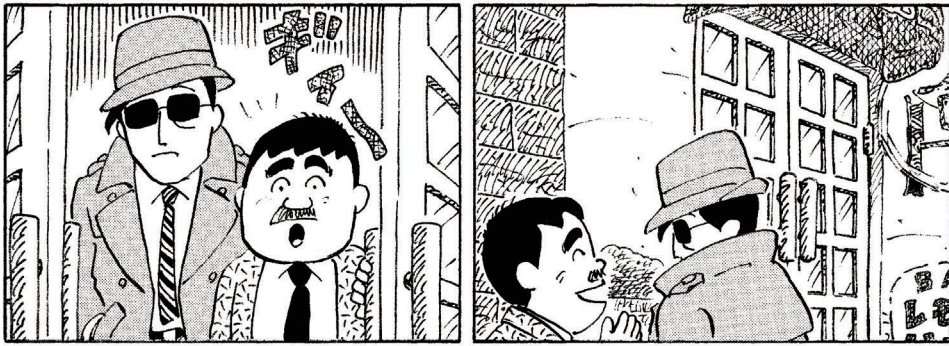
こうしてマークカスの
協力もあり今は、
老化の原因
「酸化ストレス」と
それを防止する
「抗酸化物質」の
研究を進めて
いるんです

研究がまた
新たな研究を
生んでいったの
ですね

2001年から
2013年
長い道のりですね

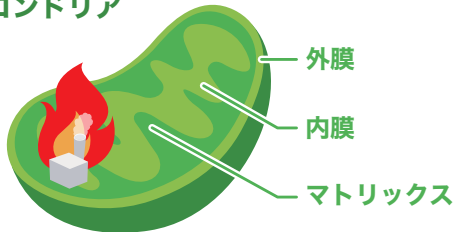
そして、
また新たな道を
進んでいるという
訳ですね

そうですね



アルコール代謝とミトコンドリア

ミトコンドリア

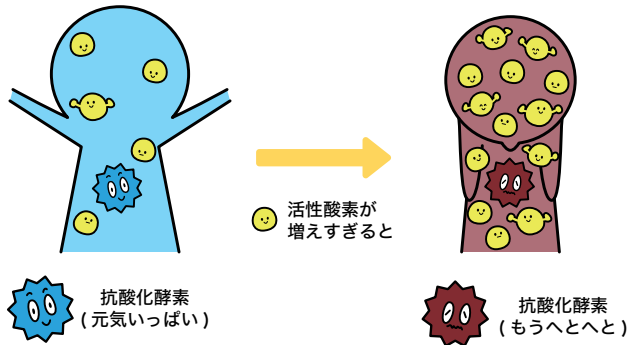


エネルギーの生産工場

アルコール代謝は肝臓の細胞内のミトコンドリアで行われます。ミトコンドリアはアルコール代謝だけでなく呼吸で取り込んだ酸素とグルコース(糖質)を利用して生きるためのエネルギーを作っています。

アルコール代謝とエネルギー代謝は同じTCA回路(クエン酸回路)で行われているためアルコール代謝を促進することはエネルギー代謝(糖代謝)にも関連しています。

酸化ストレスと抗酸化力



ミトコンドリアがエネルギーを産生すると同時に活性酸素という活性の高いものも作られます。これが酸化ストレスの元であり身体をサビさせる原因になります。アセトアルデヒドは活性酸素の1種である過酸化水素を生み出します。

私たちの身体には、この活性酸素を打ち消す力「抗酸化」が備わっていますが、活性酸素が抗酸化力を上回ると酸化ストレスとなり、細胞やタンパク質、DNAを傷付け、身体をサビさせてしまいます。そのため酸化ストレスが高い状態が続くと様々な疾患を引き起こすのです。

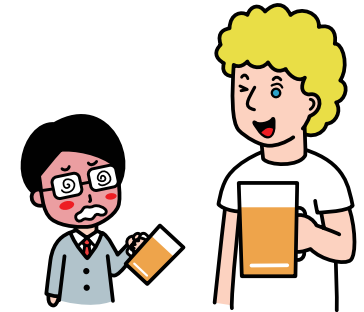
大量の飲酒によって肝炎や肝硬変、腎炎などの症状もこのアセトアルデヒドによる酸化ストレスが原因です。体内で産生される活性酸素の量を減らすこと、また抗酸化力を上げること、この2つが健康のためには大切なのです。

アジア人がお酒が弱いのはなぜ!?

アジア人などのモンゴロイド(黄色人種)にはお酒が弱い方が多くいます。これは遺伝的な原因です。

アルコールは肝臓のミトコンドリア内で無害化されます。

アルコールが体内に入ると、まずアルコール脱水素酵素(ADH)によってアセトアルデヒドに分解された後、アセトアルデヒド脱水素酵素(ALDH)によって水と酢酸に分解されます。



この2種類の酵素のうち、アルデヒド脱水素酵素(ALDH)にはALDH1とALDH2があり、ALDH1は血中のアセトアルデヒド濃度が濃い場合に働きます。一方、ALDH2は血中のアセトアルデヒド濃度が低い場合に働く酵素です。

アジア人などのモンゴロイドは、このALDH2酵素が少ない、または全くない方がいるのです。

ALDH2遺伝子の人種差

遺伝子型	酵素活性	日本人	中国人	韓国人	白人	黒人
正常型ホモ ALDH2*1/2*1	100%	50%	53%	66%	100%	100%
ヘテロ ALDH2*1/2*1	6%	44%	41%	27%	0%	0%
異常型ホモ ALDH2*1/2*1	0%	6%	6%	6%	0%	0%

※韓国人のデータは対象が少なく信頼性にやや欠ける

SUPALIV(株)のALDH2遺伝子の人種差データを見ると日本人でALDH2の遺伝子の約半数がALDH2の働きが弱いという結果に対し、白人、黒人の方は0%です。(ヘテロALDH2*1/2*2、異常型ホモALDH2*1/2*2の数値)

更にアジア人の中にはALDH2が全く働かない方が6%、つまり約1割程度が全くお酒が飲めない方がいるのです。このALDH2が働かない方はアセトアルデヒドの血中濃度が低くても酵素が働かないため、ちょっとお酒を飲むだけで頭痛や吐き気などの症状が出てしまいます。

お酒が弱い、もしくは飲めない方は遺伝的にアルコールを分解できないことになりすから、体質を考慮する必要があります。特にALDH2が全くない、または働かない方は訓練してもお酒に強くなることはありませんので無理してお酒を飲んだり、人から勧められても断るようにならねばなりません。